

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【自然科学系】

【理科教育】授業の履修カルテの記述内容、協働学習への取組ならびにプレゼンの他己評価、筆記試験を総合的に評価している。

【教職】授業への参加、話し合いへの取組、レポートなどを総合的に判断

【生活科教育A】

- ・毎時間提出するノートの記述内容を関心意欲・思考・理解について評価して得点化している。
- ・定期試験の記述内容を教科の内容や指導法の定着度について評価して得点化している。
- ・15回分のノートの得点の累積と試験の得点を合計して結果を出している。

【生活科研究 A B I】

- ・毎時間提出するノートの記述内容を関心意欲・思考・理解について評価して得点化している。
- ・15回分のノートの得点の累積を結果としている。

日頃の授業への参加の度合いを、前述のC-Learningにおける学生の履歴から判断して評価している。その他、作品の完成度、発表内容などを踏まえて総合的に評価している。

シラバスには、「講義内容と「授業外学習指示」で指定した学習を踏まえた<知識／理解><思考／判断>を問う筆記試験(持ち込み不可)を85%、レポートを15%とする」と書いており、実際のそのようにして素点を出したが、毎回、総合点の平均を70点程度にするように、ある程度得点調整をしている。学生には、自己評価に比して単位は出ているように思えるだろう。実際、アンケート問13「授業の難易度」に関して、25%程度の学生が「難しい・難しすぎる」と回答しているが、授業レベルとしては丁度よいと思っている(その割には、問15に「1時間未満・なし」と回答している学生が7割以上いるのが大問題(23/35と19/23)。

講義中に指示をした提出物と授業への参加意欲や態度及び定期試験の結果を踏まえ、総合的に評価した。

出席と課題のレポートの出来具合に基づき、総合的に評価している。

○講義参加、振り返り、ワークショップ、テストを、それぞれの「評価視点」「達成規準」により行った。

提出されたレポートで総合的に判断した。

出席と授業態度、および、内容理解の達成度

・授業への関心・意欲・態度、授業の振り返りカード、および、課題レポートを踏まえ総合的に判断した。

主に理科指導を考えるために必要となる教科目標や教科・教材内容の知識の理解、学習者の授業での変容やその取り扱い、その評価に関する技法の理解は重要になる。この視点から特に、構成比率50%を占める筆記試験ではこれを評価しているが、2年生よりも教育実習後の3年生の方が、児童生徒スタンスから教師スタンスへと彼らの視点がより移行するために、成績素点は上昇する傾向にある。この特性を踏まえて、クラスの学生の文脈に応じて得点調整を行うことで妥当な判定の確保に努めている。また、平常点(学修カルテの記述を含む)と課題点(複数回のレポート)を合わせることで、実践的指導力について構成比率50%で捉えて成績素点を算出している。これらの成績素点を合算して、最終的に学業成績を判定している。

毎回の授業で提出してもらっている小レポートをメインに評価をしました。

毎回の授業で実施した「出席確認課題」と「期末考査」とを基に、総合的に判断した。

授業内で課すレポート(50%)生活科の本質と教科の独自性に関する講義内容を踏まえて、複数回レポートを提出させた。課題への的確な回答・記述の方法・独創性及び発展性の3観点によって評定した。
模擬授業における指導と評価(30%)ロールプレイにおける授業者としての振舞いを、児童への評価行動、児童とのコミュニケーション、基本的な技術(声量、発話の速さなど)の3観点によって評定した。
授業中の参加態度(20%)主にロールプレイにおける児童役としての振舞いを評価した。また、発問に対する反応、グループワークの発表者等の動きをその都度記録して点数化した。

提出された各課題において、観点別にして、十分に理解されている、理解されている、理解が十分ではない、ならびに表現に独自性がある、表現できている、表現が十分でない、の段階別の評価を合算することによる。